

力を抜いたら ×15勝



プロ野球巨人のイベント「沢村拓一デー」が5月15日、東京ドーム屋外広場で行われ、ゲスト出演した中大時代の野球部前監督・高橋善正氏(69)＝元巨人投手＝がさらなる活躍を願った。



「15勝も間近」と語る高橋前監督

ナイトゲームで交流試合開幕第2戦・ロッテとの首位決戦、午後3時過ぎから会場には熱心な約300人のファンが詰めかけた。

「沢村投手を育てました高橋さんです」と司会者に紹介された前監督は「そうじゃなくて、彼はひとりで育ったんですよ」と教え子の努力を称えた。

栃木・佐野日大高から入学して始まった師弟関係。「何よりいいのは体が丈夫。これまで故障したことがな

い」と沢村投手の183cm、96kgの鍛えられた体を称賛する。「下半身を徹底的にトレーニングしていました。それがよかった。なにしろ練習や自分で決めたトレーニングが終わらないと食事もしない性格だから。友人との付き合いはよくなかったでしょうね」との言い方に会場からは笑い声が出た。

練習熱心なのは中大時代からのようで、高橋前監督によると「2年上にはいま楽天の美馬学投手がいて、彼が実によく練習をしていた。沢村君は先

輩を見ていた」。沢村投手の2年下の鍵谷陽平投手も先輩たちの教えにしたがって力をつけ、ことし日本ハムに入団し、勝ち星を挙げた。中大の誇る伝統が脚光を浴びている。

司会者からアドバイスを求められた高橋前監督。「力を抜いてコントロールしていけば15勝は勝てます、いつだって全力投球なんだから」と入団3年目で初の15勝ライン到達を口にした。

会場には大型ビジョンが設置され、沢村投手が画面に現れた。「巨人のユニホームを着て、いまプレーできるのも善正さんのおかげです。いつか善正さんのようなピッチャーになり、認めてもらいたいです」

高橋氏は中大から入った東映(現・日本ハム)で1年目に15勝をマークして新人王。5年目には史上12人目の完全試合を達成した。また長嶋茂雄選手が現役を引退した試合の先発投手としても知られる。

巨人のイベント「プレーヤーズ・デー」は同球団のHPによると、人気選手にスポットを当てる特別企画、巨人軍主催13試合で選手の魅力に迫る様々な企画を展開している。